

	<h1>上郷の丘</h1>	上郷中だより第26-7号 平成26年9月29日 横浜市立上郷中学校 横浜市栄区犬山町6-2 電話(892)2478
---	---------------	---

校長 吉田 直史

「最終話の開幕 ～おわりのはじまり～」をスローガンに第40回文化祭ステージ発表の部が9月19日(金)に開催されました。このスローガンには、来年度の庄戸中との統合をひかえて、これまで先輩たちが築いてきた上郷中の伝統を大切にしながら、新たな上郷中につなげ、創っていこうというメッセージが込められていると思います。

当日、生徒たちの表現力豊かな演技、ステージ上だけでなく会場全体を使った演出、舞台と映像を組み合わせた演出、完成度の高い大道具・小道具・衣装、効果的な音響・照明など、それぞれのクラスの工夫には感心させられました。

40年間続いた最後の文化祭として、発表する側と観る側が一体となった、とても素晴らしいステージ発表でした。

当日は多くの保護者・地域の皆様に来校いただき、生徒たちの頑張りに温かい拍手を送ってもらえたことに感謝申し上げます。

==1学期を振り返って==

2学期からの教育活動を進めていくうえで、職員で1学期を以下のように振り返りを行いました。

#### 【良かった点】

- 1年 ・男女の仲が良い。
  - ・行事に対し、一生懸命に取り組む。
- 2年 ・行事を通してクラスで団結しようという意識が高まってきた。
  - ・学習に対する意欲が出てきた。チャイム着席が定着してきた。
- 3年 ・お互いを思いやり、学級活動や学年行事が円滑に進んだ。
  - ・学習に対して意欲の高まりが感じられる。

#### 【課題】

- ・他者との関わりの中で、他者を尊重する発言や他者の気持ちをくみ取ることに欠ける場面がみられる。
- ・場面に応じた行動ができず、自分の欲求を優先してしまう場面がみられる。

良かった点をさらに伸ばし、課題となっている点はご家庭との連携を深め、一人ひとりを大切にしながら温かいつながりを持ち、教育活動を進めてまいります。



# 第40回 上郷中文文化祭 発表を終えて～担任から

## 4・5組の取り組み

3年生の意見を尊重しつつ、全員で話し合って決まった発表内容がダブルダッチでした。いざ、練習をしてみるとロープを回すことすら難しく、入るタイミングも跳ぶタイミングも全くつかめませんでした。運動が得意でない子が多く、毎日の練習は苦しいものだったと思います。溜まっていく疲れや足の痛み、跳べないことへの焦りと不安でクラスの雰囲気が悪い時もありました。しかし、「苦しくても笑顔」を一人ひとりが意識し、励まし合ったり教え合ったりするようになり、本番では「とにかく楽しもう！」と全員で心を一つにすることができました。

## 1 学年の取り組み

1組…河童の涙と言う物語は、現実には存在しない河童の登場によって、クラスのいじめ問題に向き合いながら、友情の大切さなどを生徒達が考えていく物語でした。配役や係決めを10分足らずで決めたクラスの良い雰囲気から、1組のステージ発表への目標は『いつも全員で！』になりました。劇に出演する人数を20人以上に増やし、クラスは、本当にいつも全員で練習に取り組み、本気で奨励賞を狙って努力を重ねました。結果的に賞は獲れませんが、クラスには団結力や絆が生まれました。当日まで、本当に『全員』で頑張れた素敵な時間でした☆

2組…悪の組織を壊滅させたヒーローのブルーがニートになってしまう。しかし、仲間の力をかりてヒーローの心を取り戻していくストーリーでした。なかなか配役が決まらず少し大変でしたが、制作や音響・照明などはすぐに決まりました。役者は照れながらも少しずつセリフを覚え、演じられるようになりました。制作班は最初の方はなかなか仕事が進まなくて大変でしたが、劇が近づくにつれて制作スピードが上がり、見事なものを作れました。音響・照明は練習をしっかりとやり、本番も見事でした。

3組…「夢喰い」という劇に取り組みました。3組が得たもの（生徒の声）は、「たくさんの絆。すごく仲良くなった。どうにかする力。クラスが明るくなった。一生懸命にがんばる大切さ。」どれも貴重な気づきです。担任としてとても嬉しかったことをいくつか紹介します。自分の係の役割が終わったら違う係に「なんか手伝うことある？」と声をかけていたこと。誰にも言われずに教室のゴミを片づける人がいたこと。みんなで一つのものを創ったこと。道具や教室の後片付けも全員で協力してできたこと。自分のクラスを好きだという人が増えたこと。

文化祭当日は、多くの保護者の皆さまに、ご参観いただきありがとうございました。この中の83名の方に今後の教育活動のためのアンケートにも答えていただきました。ご協力ありがとうございました。

### 《アンケートの項目と結果》

①生徒達は積極的に文化祭の発表に取り組んでいる。

評価：よくあてはまる…65% ややあてはまる…35%

②生徒達は仲間と助け合って、文化祭の発表をしている。

評価：よくあてはまる…66% ややあてはまる…34%

③生徒達は劇の内容や表現を工夫している。

評価：よくあてはまる…53% ややあてはまる…31% あまりあてはまらない…2%

## 2 学年の取り組み

1 組…ステージ発表で賞をねらうにはプロの脚本家が書いたものから選ぶのが手堅いです。でも2年生ぐらになると、堅苦しい話よりも自分達がおもしろいと思う脚本を演じたいという気持ちが強くなってきます。2年1組は、まさにそうで作ってはボツ、作ってはボツ・・3本目で納得する脚本を作ることができました。出遅れたので間に合うか心配でしたが、中学生の力はすごいもので、前日の特訓でなんとか完成にこぎつけました。当日、円陣を組んで気合いを入れている姿を見て、クラスが1つになっている瞬間を感じました。やはり文化祭は楽しい！

2 組…それぞれの役割を決めたあとに、OKワードとNGワードをクラスの皆で決めました。これは劇の練習で言った方がよい言葉と、言ってはいけない言葉という意味です。クラスの皆で前向きに取り組むために決めました。練習では、生徒たちも感じていたと思いますが、本当に良い雰囲気で行うことができました。本番はさまざまなアクシデントが続出しましたが、皆で取り組んだという結果は、変わりません。喜びも悲しみも皆で分かち合い、次なる合唱に向けて全力で取り組んでいってほしいと思います。

3 組…昨年度経験したことを活かして、はじめから計画的に進めていたと思います。積極的に役者や係決めなどを行い、自分たちで動いていました。毎日の準備や練習で集中力が切れてしまったこともありましたが、やるべきときにはやる！という姿を見せてくれました。また、全員が最後まで「笑顔」と言うことを目標に取り組みました。うまくいかないこともありましたが、本番は今までの中で一番の劇を見せてくれました。次は合唱。さらなる羽ばたきを期待しています。

## 3 学年の取り組み

1 組…6月に台本のあらすじをクラスのみみんなで検討してから約3ヶ月。転校生が来て事件が起こるという設定の脚本を探し出し、どのように手直しをするのかもみんなで話し合い、練習もビデオ撮影とその編集も自分たちの手でやり遂げました。演技練習は本当に楽しそうにみんなで笑顔で取り組んでいたのがとてもよかったです。本番は全員で円陣を組んで臨みました。みんなで作り上げた成果が奨励賞につながったのだと思います。体育祭、ステージ発表と賞をとってきたので合唱コンクールも最優秀賞をとるべく全員で向かっていきます！がんばるぞ！

2 組…自分達のクラスの色を出せるものを探していましたが、なかなか良い台本が見つからず、やりたいこと、表現したいことは沢山あるのに、進まない日々が続いていました。そんな中、推進委員が見つけてくれたのは、クラスの雰囲気からは想像できないメッセージ性の強い脚本でした。クラスの中で、全員が活躍できるように考え、監督を中心に自分達で演出から道具から全てを考え日々練習を行っていました。担任は、演技指導も演出も一切なしで、皆を見守らせてもらいました。前日まで台本をもちながら練習していたのに、本番の出来は、鳥肌が立ちました。賞につながらなかった原因を考え、合唱は！！！！

3 組…なんといっても今回は着物などの衣装や大道具・小道具にこだわりました。本番までの短い期間の中で、テキパキと準備し、さすが3年生だなと感心！役者も『恥って何！？』を合言葉に練習を重ね、教室での劇の練習では、クラス全員で一丸となり毎日楽しい雰囲気で行うことができました。最期の文化祭ということもあり、何よりも自分たちが楽しむことを大切に進めてきたことが、「奨励賞」という最高の結果になって現れたことが素直に嬉しかったです。団結力とこの勢いそのままに、次の合唱コンクールも獲って2冠を目指そう！！

